

第115回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年12月9日（月） 9：00－11：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

宇宙政策委員会

後藤委員長、常田委員長代理、青木委員、片岡委員、澤田委員、白坂委員、鈴木委員、松尾委員

(2) 事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局：

風木事務局長、渡邊審議官、猪俣参事官

(3) オブザーバー

森昌文内閣総理大臣補佐官

宇宙航空研究開発機構（JAXA）：山川理事長

(4) 関係省庁等

総務省国際戦略局：近藤審議官

文部科学省大臣研究開発局：堀内局長

経済産業省大臣官房：浦田審議官（製造産業局担当）

国土交通省大臣官房：中崎技術総括審議官

環境省地球環境局：土居局長

防衛省防衛政策局：高橋戦略企画参事官

4. 議事要旨

(1) JAXAロケット燃焼試験中に生じた燃焼異常による爆発について

文部科学省より資料1に基づき説明を行った。

委員からは以下のような意見があった。

○第2段モータの燃焼試験での爆発は前回に続き2度目である。JAXA内の原因調査チームには、輸送部門に閉じない、幅広い人材をアサインして調査に取り組んでほしい。

○能代での試験に続き、今回は種子島での爆発だが、今後の試験計画等への影響も心配である。急ぎ、設備の修理や原因調査を進めてほしい。

○イプシロンSロケットは、日本に欠かすことのできない固体燃料ロケットである。原因究明と再発防止にしっかり取り組み、早期に打上げを成功させてほしい。

(2) 宇宙基本計画工程表の改訂について

内閣府およびより資料2-1～2-3に基づき説明を行った。

委員からは以下のような意見があった。

○ミサイル防衛は日米協力においても重要なアイテムである。今後の実装や開発スケジュールを明確に示すべきではないか。

○GPSに頼らずとも、準天頂衛星のみで測位可能な体制の構築は非常に重要である。早期に11機体制を構築してほしい。

○「宇宙システムの安定性強化に関する官民協議会」の取組は重要である。今後も継続・強化して取り組んでほしい。

○地球観測衛星について、小型も大型も含め、今後どのように将来の計画を描くのか、分かりやすく示す必要がある。

○衛星データの利用に関しては、令和6年度から3年間の「民間衛星の活用拡大期間」以降も、継続的に積極的な利用を進めていく必要がある。

○GOSAT-GWは世界的にも評価が高い。国家戦略として、注力してほしい。

○月面活動について、ミッションも重要だが、どのような産業を創出していくのかも考慮に入れて検討を行う必要がある。

○基幹ロケット及び民間ロケットによる年間30件程度の打上げ能力を確保するためには、インフラとしての射場の整備も重要である。

○技術試験衛星9号機の打上げ時期については、開発状況等を踏まえ、しっかりと検討する必要がある。

○宇宙開発戦略推進事務局の体制について、将来像を含め、具体的に増員・増強を図るべきではないか。

○宇宙戦略基金をきっかけに、宇宙に関するヒト・カネ・技術のエコシステムの創出を図る必要がある。

○事業者にとっての予見可能性を高めるためには、プロジェクト数の増加も重要。JAXAのプロジェクトや、国際プロジェクトの拡充も必要ではないか。

○大阪・関西万博の機会をとらえて、月面や火星探査を含めて、広く国民に情報発信を行ってほしい。

以上